



「龍田古道・亀の瀬」が日本遺産に認定 ～ 地域の魅力を再発見し、住民が誇りに思う町へ～

三郷町を代表自治体とし大阪府柏原市と共同で文化庁へ申請した『もうすべらせない!!～龍田古道の心臓部「亀の瀬」を越えてゆけ～』が2020年度の日本遺産に認定された。

<日本遺産とは>

文化庁が2015年度より始めた認定制度で、有形・無形の文化財を通じて、地域の歴史的魅力や特色を発信し、観光振興へ繋げることを目的としている。今年度(2020年度)で新規の認定は終了となり、今後は各地の取組みを支援する。

■日本遺産ストーリーの背景

奈良と大阪を結び聖徳太子の時代に整備が進んだと言われる龍田古道には、険しい天然の関所、「亀の瀬」があった。ここでは明治以降だけでも3回の地すべりが発生しており、60年近くの歳月と850億円以上もの費用を投じて、今なお対策工事が進められている。この古道はいにしえより風の通り道とされ、風の神様を祀る龍田大社(三郷町)が創建されて人々が道中の安全を祈願した。

■日本遺産認定への取組み

当初のきっかけは、三郷町町政50周年の取組みとして「三郷を町民が誇りに思い、多くの人に来てくれる町にしたい」との町の思いからだった。2016年11月、大阪府柏原市と包括連携協定を締結し、両市町を結ぶ「龍田古道」を日本遺産に申請することが決定した。2019年1月に1度目の申請を行ったが、その時の申請書は歴史の羅列になってしまいストーリーをまとめきれず不認定となった。今回は、生涯学習課、企画財政課、ものづくり振興課の3課から2名ずつを選出してプロジェクトチームを編成し、前回の内容を修正。『古代遺産の「龍田古道」』、『近代化遺産の「亀の瀬」』、『「龍田大社」の信仰』という3つを上手く結び付けたストーリーを展開した。

同町担当者は、「前回の申請時とは違い今回は3課が集まったプロジェクトチーム。様々な意

見が飛び交いまとめるのは大変だったが、それが功を奏したのかもしれない」と話す。タイトルも、審査員の目に留まり興味をかき立てるものでなければと、インパクトのあるものにした。これらが評価され、今回2度目の挑戦で実を結んだ。

■地域住民の協力と近隣地域との連携

本年9月4日に同町は大阪府柏原市と『日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会』を設立し、5か国語に対応したガイドマップやウェブサイト、ロゴマーク、プロモーション動画の制作などに取り組むことを決めた。同町は、地域住民やボランティア団体、企業などと協力して、観光客誘致のために移動手段の整備やボランティアガイドの育成など観光インフラの充実に取り組み、さらには、体験コンテンツや学習ツールの整備、「亀の瀬の地すべり地」のインフラツーリズム*を進めることで、町の認知度を高め、そのことが「住民の郷土愛を育むことにも繋がっていけば」としている。

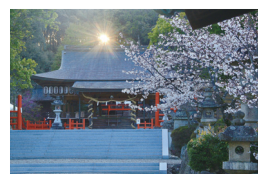
この日本遺産認定が地域住民の誇りとなり、今後たくさんの人達が訪れる観光地に発展することが期待される。

(村井 渚)

*ダム、橋、港、歴史的な施設等のインフラ施設を観光資源にすること。



1892年に完成した鉄道跡「亀瀬隧道」。崩壊したと思われていたが2008年に再発見され、現在一般公開されている(写真提供:風の郷 龍田古道プロジェクト)



天武天皇の御世に都の西を守る風神として祀られた「龍田大社」(写真提供:風の郷 龍田古道プロジェクト)



10/1に日本郵政株式会社から発売された「日本遺産認定記念切手」